

# Governor's Monthly Letter To Club Presidents and Secretaries

Rotary International District 2550



2006～2007年度  
国際ロータリーのテーマ

## 率先しよう

RI会長 ウィリアム B. ボイド  
ガバナー 落合 雅 雄



RI会長 ウィリアム B.ボイド氏と握手を交わす落合雅雄ガバナー

## CONTENTS

- p.1 RI会長メッセージ
- p.3 落合ガバナーメッセージ
- p.4 就任あいさつ
- p.12 1年交換学生募集要項
- p.13 ガバナー公式訪問日程表
- p.14 地区組織図
- p.15 2006年度7～10月 地区主要行事予定

# 2006.7 No.1



国際ロータリー第2550地区ガバナー事務所

〒328-0042 栃木県栃木市沼和田町12-15 平和ハイツ2F  
TEL 0282-20-2020 FAX 0282-20-2025  
E-mail:m2550@agate.plala.or.jp

国際ロータリー会長

**ウィリアムB.ボイド氏**

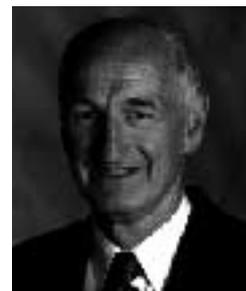
ニュージーランド、オークランド市、ホーウィック

2005-2006 年度 国際ロータリー会長エレクト

1999-2000 年度 国際ロータリー財務長

1998-2000 年度 国際ロータリー理事

1983-1984 年度 地区ガバナー



ウィリアムB・ボイド氏は、ゼネラル・マネージャーを務めたニュージーランドの最大手雑誌配給会社、ゴードン・アンド・ゴッチ・マガジン社を1995年に退職しました。ボイド氏は現在、New Zealand's Trees for Survival TrustおよびJune Gray Trustの理事、ならびに全国腎臓財団および知的障害者協会のR I代表を務めています。

また、氏は、長老教会の経験豊かな青少年指導者およびボーイスカウト公認指導者を務める他、31年間ラグビーの審判としても活躍してきました。また、ロータリー地域雑誌「ロータリー・ダウン・アンダー」委員会委員長として奉仕しました

1971年来のロータリアンであるボイド氏は、現在パ克蘭ガ・ロータリー・クラブの会員です。国際ロータリーでは、地区ガバナー、研修リーダー、国際協議会モデレーター、委員会委員および委員長（ニュージーランド・ポリオ・プラス委員会副委員長を含む）、ポリオ・プラス・パートナー副コーディネーター補佐、実行グループのゼネラル・コーディネーター補佐、ロータリー情報顧問、ロータリー財団地域コーディネーター、R I理事および財務長を歴任しました。会長エレクトは、ロータリー財団功労表彰状および特別功労賞の受賞者でもあります。氏はまた、「ロータリー・ダウン・アンダー」から功労賞を授与されました。

ボイド氏と夫人のローナさんは、現在ニュージーランド、オークランド市のホーウィックに在住しており、お二人の間には2人の息子さんと2人の娘さん、そして10人のお孫さんがいます。

**親愛なるロータリアンの皆さん**

ロータリーは、個々の部分の集まりである以上の存在です。クラブや地区の活動、奨学金や交換活動、大規模で多様な人道的プロジェクトなど、ロータリーのすべてのプログラムは、それぞれ目的を異にしています。世界中のどの2つのクラブをとっても同じではなく、このような多様性こそが私たちの強みとなっているのです。

世界中のどこにでも、より良い未来を築くことが可能だということ、そして、寛容の精神、違いに対する容認、高い倫理的価値は、成功への障壁ではなく、むしろ成功へ至る道なのだということを、私たちは共に世界に示していきます。

倫理的課題が山積みとなっている今日の世界においては、平和の構築にとって、国家間の協力と違いに対する容認が不可欠です。そんな中にあり、ロータリーは、人々が切に必要としている決然とした高潔さ、国際的な協力、ボランティア精神の模範を示しています。

2006-07ロータリー年度の私のテーマ、「率先しよう」は、ロータリアンが世界を変える力を持っているという私の信念を表しています。親睦と奉仕を通じて明るい未来をもたらすために、120万人のロータリアンが力を合わせて率先していくのです。

今日の世界は、スターではなく、真の英雄を必要としています。ロータリーにいる私たちは皆、多忙な日々を送りながらも、ベストを尽くそうとする、普通の人々です。私たちは、幾千にも異なる方法で、世界をより良く、より健全かつ安全にするために黙々と活動しています。私たちロータリアンは、奉仕を選ぶ際に、感情のなすがままではなく、実用と必要性に基づいて立ち上がらなければならないと、私は強く信じています。真のニーズが何であるかを見極め、柔軟で協力的な姿勢で活動に臨まなければなりません。ロータリーの奉仕は一方通行であってはなりません。

すべてのプロジェクトは、私たちが援助する人々と協同して行わなければならないのです。

世界中には、数え切れないほどの途方もなく大きなニーズが存在します。ロータリアンとしてそれらすべてを満たしたいと思うのは当然のことですが、同時に私たちは実用性を重んじ、最も必要とされているところに努力を注いでいかなければならないことを心得ています。このことを踏まえて、私は、水保全、識字率向上、保健および飢餓、ロータリー家族を、2006-07年度の強調事項として選びました。

ロータリーの外では、発展途上地域で清潔で安全な飲み水が不足しているという事実に対する認識があまりに低いのが現状です。もし自然災害が1日に6千人の5歳以下の子供の命を奪ったとしたら、それは新聞の一面記事となるでしょう。しかし、水系伝染病によって、毎日、6千人の子供が命を失っている事実を知る人は少ないのです。このような問題は、地元での小規模なプロジェクトを通じて、非常に効果的に取り組むことができますし、長年にわたってロータリーのプロジェクトが取り上げ、成果を収めてきました。私は、ロータリー世界各地のクラブや地区に、この活動を引き続き展開し、必要とされている場所ならどこでも、一つ一つの地域社会に、清潔な飲み水をもたらすために活動していただけるよう奨励いたします。

**ロータリーは、人々が切に必要としている決然とした高潔さ、国際的な協力、ボランティア精神の模範を示しています。**

本好きな家庭に生まれ育った私にとって、識字能力は大変重要であり、識字能力が社会にもたらす恩恵は測り知れないほど大きなものであると考えています。識字能力は、国家における民主主義、安定、繁栄の必要条件です。それは、貧困の輪から抜け出す可能性、そして次世代により良い生活をもたらす可能性を秘めています。識字率向上は、多くのRI会長の優先事項となってきましたし、今後もそうあり続けなければなりません。

保健および飢餓は、ロータリー・クラブが地元で行っている活動の多くで取り上げられている問題です。これらのプロジェクトはロータリーの奉仕の中核であり、ポリオ・プラスという素晴らしい業績を生み出しました。私たちは、ポリオの撲滅が実現するまでこの活動を続け、また、ロータリーの名を世界中に知らしめている数多くの多様な保健プロジェクトや飢餓救済プロジェクトを今後も実施していかなくてはなりません。

私は、今年度、再びロータリー家族を取り上げ、ロータリー家族のすべての人々に等しく思いやりの心を持つことを協調したいと思います。ロータリーの将来を健全に保つためには、青少年交換、インターアクト、ローターアクトといった青少年プログラムが不可欠です。これらのプログラムは、次世代に、誠実さ、寛容、無私の精神を育み、ロータリーの活動を助長するものです。ロータリー家族とその配偶者を思い遣ることで、ロータリーの結束力は一層強まります。

2006-07年度、ロータリーが各個人にもたらすことのできる可能性、そして各個人がロータリーにもたらすことのできる可能性を中心に取り組まれるよう、世界中のロータリアンにお願いしていく所存です。共に協力し、さらなる成功へ向けて「率先しよう」ではありませんか。また、引き続き真のニーズを特定し、地域社会や諸団体と協力しながら、これらのニーズが理想主義や夢想ではなく着実な努力と確かな知識に基づいた、実用的かつ持続可能な方法で取り組まれることをこの目でたしかめていこうではありませんか。

私たちロータリアンは、より良い世界を夢見るだけでは十分でないことを知っています。より良い世界は、慎重な計画、誠実な協力、ひたむきな努力によってのみ実現するのです。

私たちロータリアンは、実現をただ待ち望むだけではありません。共に「率先しよう」のテーマを実践していきましょう。



ビル・ボイド  
2006-07年度 国際ロータリー会長



## 年度のはじめにあたって

国際ロータリー第2550地区  
2006～2007年度ガバナー

**落合雅雄**  
(栃木西RC)

ロータリー第二世紀のスタート年、ステンハマーR I 会長のテーマは、ロータリーの原点からの再出発を意図する「超我の奉仕」が掲げられました。

新世紀二年目、ボイドR I 会長は、さらにロータリーが前進するべく「Lead the way」（率先しよう）をテーマとしました。サンディエゴにおける国際協議会の冒頭、ボイド会長は、肅々とロータリーの奉仕活動を率先して実践されるよう諭されました。

the wayは、ロータリーのObject（四大奉仕）を推進する道であり、多岐に亘る様々な道があります。これらの道の選択は、ロータリアンに委ねられており、各々が選んだ道を率先垂範進むことが求められています。

宗教に基づく「サービスの理念」がロータリーに導入され、多くの先達による試行錯誤が続けられて、ロータリーは今日の成熟した形になったことは周知のとおりです。

今から10年前、ロータリークラブとロータリアンは増え続けていました。この増加する地区の管理義務をより適切にするため、理事会はDLPを決定し、クラブ運営に関連した多くの管理作業を地区ガバナーに代わって行うことができるガバナー補佐を新設して、ガバナーの活動をより拡大する一助としました。当地区では、1999～00からガバナー補佐を採用しています。しかし採用当初は、その責務について研修も充分行われてないこともあって不本意な年度もあったようです。

その後時を経るに従ってロータリーの状況は、右肩下りの傾向が続き、会員減少に歯止めが効かない現象が、特に日本・米国において顕著に認められていることご存知のとおりです。

そこでDLPは、組織構造にとってより効率的に活性化が図れることから、2002年にその強制採用が理事会において決まりました。

さらにCLPがクラブの組織改編による活性策として登場しました。クラブにおける会員減少傾向に対して、元気を取り戻せるように特に小規模クラブに適用することが奨められました。

今年度CLPの採用については、地区チーム研修セミナー、PETSおよび地区協議会さらに数回のガバナー補佐会議において、多くの貴重なご意見を頂きました。その結果、地区内クラブの約6割が今年度CLPを採用し、他のクラブも前向きに検討される意向を示していただきました。

またガバナー補佐には、十分に支援が可能なクラブ数は7クラブが限度をいうことから当地区を従来の6分区から10グループに再編し、ガバナー補佐とクラブの意志の疎通を図ることとしました。幸い10名のガバナー補佐全員が、ガバナーの資質を充分持っておられる方々なので、期待以上の活躍が頂けることと信じております。

国際協議会において、メイン会議場の入口に伝説の「入りて学び、出でて奉仕せよ」のフレーズが掲げられてありました。米山氏は、ロータリーを人生道場と位置づけました。将にロータリーは人生哲学を学ぶ場であり、百年の歩みの中で「超我の奉仕」はもとより、実に多くの教訓が先達によって残され、今日も拳拳服膺されています。

菅生浩三元R I 理事は「今日、世界的規模における人間社会の政治・社会・経済情勢や価値観の変動は、実に目まぐるしいものがある。その中で人の生甲斐と幸せを求めようとするとき、ロータリーの思想の存在意義が、今ほど強調され期待されている時代はない」と述べています。

私達ロータリアンは、今こそ率先して奉仕活動を実践して行くことで、安心・安全な社会の構築に寄与できるように地区目標に向って皆さんの活力を頂きますと共に、この一年充実したロータリーライフであることを祈念します。



## 就任にあたりて

05-08地区研修リーダー

# 佐野 正行

(佐野 R C)

落合ガバナーはアメリカ、サンディエゴでの国際協議会で「入りて学び、出でて奉仕せよ」のスローガンのもと、八日間に渡る本会議とセッションでの勉強をされました。

その第一本会議で2006-07ウィリアムB・ボイドR I会長エレクトは国際協議会で「ロータリーは地球村のリーダーです、そして地区地域においてリーダーの役割を果たし、ロータリーの道を率先してくださいと、「LEAD THE WAY」「率先しよう」とテーマを示されました。さらに第3本会議でウィルコックス氏はリーダーシップ・プランに触れ「ロータリーは後ろ向きの組織ではありません、私たちが常に変化している社会にいる以上、ロータリーも常に変化し心構えが必要なのです」と話され、クラブ・リーダーシップ・プランについて、「これは義務付けられたものではないが、このプランを採択することによりクラブ会員がクラブ活動に参加することの実感を得ることが出来るでしょう、また指導力の継続性と定期的な親睦の機会を得ることが出来る」とも示されました。

皆様のクラブはCLPを採用されたでしょうか、未採用のクラブは是非採用してください。それを決して難しく考えないで下さい。CLPを採用することによりクラブはより運営しやすくなると思います。CLPは今までの委員会を否定するものでもないのです、大きなクラブでも少人数のクラブでも同じ様な活動が出来る研究されたクラブ組織なのです。ウィルコックス氏の述べられるように、今日の社会は絶えず変化をしているのです。そうした中で旧態依然たるだけのクラブ運営ではなんら進歩は無く、衰退の一路を進むだけかもしれません。CLPを採用しクラブ会員である皆様の力を結集して、活力あり魅力のあるクラブを作っていただきたいと思ひます。

地区研修リーダーとして皆様と共にロータリー活動のあり方をはじめ、ロータリークラブのあり方を勉強し、100年前の原点に戻って見直すときではないでしょうか。国際ロータリーはかなりの改革をここ数年で進めています。CLPもその一環で我が地区はかなりの速さで全国に先駆けて取り入れることとし、勉強会を重ね本年50クラブ中29のクラブで採用されました。5月の地区協議会は採用したクラブ、未採用のクラブそれぞれ参加できるような、過渡期的変則的な委員会構成でしたが、是非次回は50クラブ全てが採用していただければ、新しい形の協議会が考えられます。今後も種々の改革を進めていく予定です。そこにロータリーの発展が展望されるのではないのでしょうか。



## 就任の挨拶

地区幹事

# 大島 伸介

(栃木西 R C)

2006~07年度、地区ガバナーとして落合雅雄氏が就任いたしました。本年2月国際協議会に出席、ガバナーとしての研鑽に務め、ボイド次期R I会長のテーマを体して帰国されました。その後地区目標を定め諮問委員会にて帰国報告し3月5日地区チームリーダー研修会、3月17日~18日会長エレクト研修会、5月7日地区協議会を開催いたしました。この間地区内グループガバナー補佐との懇談及び研修会を開き、ガバナーとしてのスタートに着く努力を重ねて参りました。不肖私が落合年度地区幹事に指名され就任いたしました。ガバナーの任務は各クラブ公式訪問を始めとして13項目にわたる重要な事項の指導と監督が課せられており、その地のR I役員としての責任に属する任務を果たさなければなりません。地区幹事としての責務は、ガバナーの任務の事務的な事項について全面的に補佐すると共に、各クラブに対する連絡調整を担当することになっています。私は2004年12月村上肇ガバナーより地区幹事の委嘱を受け今日迄自分なりに努力を重ね精進して参りました。幸いにして地区内の多くの人との出会いにより友情を感じ人生の出会いの大切さを知りました。地区には素晴らしい指導者が多い事も感じ取ることも出来ました。判らない事など親切にご教示賜り、序々に自信もついて参りました。頭初の不安も少しづつ消えつつあります。今年度ご就任されました、ガバナー補佐並に地区役委員の皆様のご活躍をご期待申し上げ落合年度に対するご指導とご支援を衷心よりお願い申し上げます。地区内50クラブの益々のご発展と会員各位のご健勝そしてこの1年が素晴らしい感動の年で終わることを心に念じ乍ら就任のご挨拶といたします。


**地区会計長 久嶋 柳 次 (栃木西RC)**

「率先しよう」「行動に思いやりの心を」落合ガバナー年度の目標を基に一年を努力したい。

私を会計長に指名した理由は、クラブで4年会計を経験したことを生かすようにとのことと理解しています。皆さんのご指導ご協力をお願いいたします。クラブ会計担当の皆様は役立つものがあればとも思っていますので、会計担当の皆様にはご意見などお寄せいただければ幸いです。

今年も会員数の増加をガバナーの強調事項で謳われていますので、積極的の意味も加味して、予算策定において前年度同様、収入の基礎数字2000名を採用しました。3月現在2012名でありますので、非常に厳しい数字です。会員1名純増に向けて予算の面からもよろしくをお願いいたします。


**第1グループガバナー補佐 相馬 征志 (黒磯RC)**

このたび2006～2007年度 第1グループ ガバナー補佐に就任いたしました。

R I ビル・ボイド会長は、前ステンハマー会長の掲げた四つの強調事項「水保全」「識字率向上」「保険と飢餓」「ロータリー家族」を引き続き本年度の主要テーマとして採用されました。また、落合雅雄ガバナーは、ガバナー補佐会議の席などで、私たちに対し「会員増強と退会防止」に最大限の努力を求められるとともに、「ロータリー財団寄付」「米山記念奨学会寄付」目標達成の必然性を強調されております。これらの諸目標達成と奉仕活動の尚一層の推進に率先して取り組む

ことが我々ロータリアンに期待されており、今年度ビル・ボイドR I 会長のテーマ「率先しよう」はまさにこれを指しているものと思います。

第1グループ・7クラブの会員総数は220名ほどで、ピーク時から比べればかなりの会員減となり、その傾向に歯止めが掛かったとは申せません。小規模クラブでも円滑にしかも活力に満ちたクラブ運営が図れるようCLPの導入が勧められており、グループ内ほとんどのクラブが本年度からこれを取り入れ、又は取り入れを検討しているようです。

それぞれのクラブが自身の会員規模に合った組織立てをすることにより「ゆとり」を生み出すことが出来れば、親睦活動や奉仕活動により多くの力を注ぐことが出来、クラブの活性化が増進されるものと思います。

ガバナー補佐に求められている職務の一つに「地区ガバナーの管理運営上の目・耳・口・そして両腕になれ」とあります。私にとってガバナー補佐の役柄は未知の分野であり、不安な思いもありますが、ロータリーについて新たな勉強の機会が与えられたものと理解し、この職責をはたす所存です。第1グループ内ロータリアン及び関係各位のご指導・ご協力を衷心よりお願い申し上げます。


**第2グループガバナー補佐 高橋 経雄 (氏家RC)**

萩原前ガバナー補佐の後を受け、第2グループのガバナー補佐を委嘱されました氏家ロータリークラブの高橋経雄でございます。一年間、落合ガバナーのご指導のもとに、掲げられた強調事項や地区目標、そして副題として掲げられた「行動に思いやりの心を」をもって、グループ内5クラブが、本来のロータリー活動が出来るよう、少しでも手助けが出来たら望外の喜びと考えています。

I・Mは、2007年2月に開催を予定しておりますが、各クラブ会長幹事様をはじめ、会員皆様のご意見、ご賛同をもとにしてグループ内の融和と親睦を図るためのプログラムと、本年度のテーマであります“ロータリー全員挙って「率先しよう」”を考えたいと思います。

ロータリーには揺るぎない哲学ともいうべき理念があります。

ロータリークラブの本体は、「優れた友達との話し合いを通じて、お互いを師として切磋琢磨し、自分の心境を高めてゆく」という機構であります。この際「話し合い」の機能が円滑に濃密に行われるため、親睦が必要な事はいうまでもありません。やがてその向上した境地をもって、いろいろな機会に、地域社会に接する時、その人の言動は、おのずから周囲を教化してゆくという形「奉仕の哲学」になる。と私は入会時に学びました。

ウィリアムB・ボイドR I 会長は、ロータリアンが地域社会において、自らが率先して手本を示すことの大切さを述べておられますが、まさにその通りかと思えます。

この一年間、各クラブの皆様のご協力を得ながら、ガバナーを補佐し、ガバナーと各クラブのパイプ役を勤めてまいりたいと思います。

結びに、各クラブのご繁栄と、ガバナー事務所の皆様、関係者のご健勝をお祈り申し上げごあいさついたします。


**第3グループAガバナー補佐 伊東永峯 (宇都宮西RC)**

第3グループAガバナー補佐を拝命いたしました、宇都宮西ロータリークラブの伊東永峯でございます。本年、ウィリアムB・ボイドRI会長は「率先しよう」というテーマを掲げ、親睦と奉仕を通じて、明るい未来をもたらすため、世界120万のロータリアンが率先して活動すれば、世界をより良く変えることが出来ると示されました。落合ガバナーからも、RI会長のテーマ「率先しよう」に「行動に思いやりの心を」付けて行動してほしい。という方針をいただきました。それは、ロータリアン同士を始め、家庭や職場、活動などすべての場において、相手を思いやる心と心の触れ合いを大切に、率先して活動してほしいということでしょう。

特に、今年より地区リーダーシッププランが全面的に採用され、地区組織が変わりました。また、クラブリーダーシッププランが奨励されるなど、大きな転換の時ではないかと思われまます。それに伴い、第三分区も第三グループAとBに二分割されました。ガバナー補佐としての仕事分担は少なくなりましたが、その分、各クラブとの接点を多くとり、内容を深めてほしいということで、より一層の責務を感じております。

ガバナー補佐としての任務はガバナーとクラブとの綿密な連絡を果たす役として、ガバナーの方針、地区の情報を的確にクラブに伝え、そして、クラブの情報や諸問題をガバナーに伝えることが、第一の任務とっております。その為に、各クラブのクラブ協議会には出来るだけ出席させていただき、連絡役としての任務を果たして行きたいと思っております。多くの方々からご意見をお聞きできれば、幸いと思っております。

終わりに、各クラブの皆様のご指導、ご協力をいただき、ガバナー補佐としての任務を務めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。


**第3グループBガバナー補佐 喜内敏夫 (宇都宮南RC)**

第3グループBガバナー補佐に委嘱されました宇都宮南ロータリークラブの喜内敏夫でございます。今年から分区がグループとして改組され、第3分区が第3グループA、第3グループBになりました。第3グループBのメンバーは宇都宮市内4RC（東、南、陽東、陽南）です。なお、A、Bは今後とも第3グループとして連携を持ってまいります。

RI会長ウィリアムB.ボイド氏は「2006～07ロータリー年度の私のテーマ、“率先しよう”はロータリアンが世界を変える力を持っているという私の信念を表している」と言われています。

落合雅雄ガバナーは栃木市の文豪山本有三先生の「路傍の石」の一節「たった一度しかない人生を、たった一人しかない自分を本当に生かさなかつたら生きてきた甲斐がないじゃないか」の生き方と重ね合わせてロータリアン全員が共に“率先しよう”と私達に要請されています。

そうした中で昨年からのCLP（クラブ・リーダーシップ・プラン）の提案は、ロータリークラブ100周年から新世紀に向けて新たな決意をこめたものと思っております。101年前にポール・ハリス達がどんな「志」でロータリークラブを創設したかを私達は知っています。あの荒んだ環境の中でどんなにか悩み苦しみ、辛く、寂しかったことかを。だからこそ私達は社会からもっと尊敬に値する組織になる為に、一人一人にロータリアンとしてのリーダーシップを要請されていると思っております。

今まさにCSR（企業の社会的責任）が問われている時、RI会長、落合ガバナーの今年度の方針“率先しよう”は自らが率先垂範することだと思っております。ロータリーの綱領が一人一人の生き方の指針となって足元を照らしていただける気がします。

この1年間、第3グループBの活性化の為に何かお手伝い出来ればと考えていますので、よろしくお願いいたします。


**第4グループガバナー補佐 篠原宣之 (真岡RC)**

今年度、旧第4分区が2分割され、益子・石橋・真岡西・真岡の第4グループガバナー補佐を拝命しました真岡クラブの篠原です。

一年間ご指導、ご協力よろしくお願い申し上げます。

ロータリー創立100周年を記念してRIから発行されたロータリー物語「奉仕の一世紀」の序にロータリーは深く大きな河である。100年の間、多くの小さな流れを合流してどこまでも続くか分からない未来に向かって、これから新しい力を増し続けるであろうという一節がある。多くの輝かしい足跡を残されてまた多くの先輩方に敬意を表し、誇りを感じながらも、一方では最近のロータリー運動

に些かの淀みが出て来ていると感ずるのも否めない事実ではないかと思ひます。

世界の一流ブランドにしても、私共地元の伝統工芸益子焼にしても、伝統を大切にしながらも、新しい時代にマッチしたエッセンスを加えて行かなければ、生き残って行けないと思ひます。

このような中で、本年度落合ガバナーは、CLPの積極的な導入、クラブの自主性に情報の開示などを推進し、クラブの活性化、退会の防止など活力あるクラブづくりを提唱されておられます。各クラブも新しい事業計画のもと、すばらしい事業が展開されますよう期待しております。

ロータリー活動の主役は会員一人ひとりです。RIや地区の指導や助言も大切ですが、各々のクラブや地域に合った特色あるクラブづくりが一番大切ではないかと思ひます。

皆様の声を大切にしながら、できる限りの効率的な活動と改革を進め、ガバナーとの橋渡し役として、微力を尽くして行く所存ですのでよろしくお願い申し上げます。



#### 第5グループガバナー補佐 **吉光寺 俊 夫** (小山RC)

落合ガバナーの地区内分区改編によりまして、旧第4分区から、小山市内5クラブが分離し、第5グループが誕生いたしました。この改編により、同一市内のロータリアン170人が、地域のニーズに合ったロータリーの奉仕の理想の実現に向って、協調協力して、奉仕プログラムを推進出来ればと思ひます。ビルボイドRI会長の「率先しよう」のテーマを受け、落合ガバナーは「思いやりの心をもって、ロータリー活動を率先して行動しよう」とメッセージを出されました。そのためにも、第5グループ170人のメンバーが、顔と名前を知り合い、どこで会っても、バッチを見て「やあ」と挨拶が出来るような親睦と友情を深めることが、一番の基本と考えます。クラブは5つに分かれていても、同じロータリアンとして、交流と親睦を深めるお手伝いが出来れば、幸いです。IMをいかに楽しく実施するか、又、スポーツ大会の開催等皆様のお知恵をお借りして検討したいと思ひます。奉仕プログラムはもとより、落合ガバナーの目標達成の為に、ロータリー財団と米山記念奨学会の寄付のお願いをしたいと思ひます。ロータリーの綱領や四つのテストの原点にもどり、各クラブの伝統や、規模を考慮しつつ、各クラブの意向を的確にガバナーに伝達し、又、ガバナーの指導伝達事項を各クラブに還元するのが、私の役目と考えますので、どうぞ、ご指導ご協力の程、お願い申し上げます。



#### 第6グループガバナー補佐 **松 本 幸 三** (壬生RC)

今まで当地区は6分区に分かれていましたが、地区組織が細分化されて、分区からグループに名を変えて、10グループになりました。

この度、その中の第6グループのガバナー補佐に就任致しました。落合ガバナー年度の1年間、ガバナーのご指導を得て、そして、第6グループの栃木、栃木西、栃木南、壬生各RCの皆様のご支援とご協力をいただいて責任を果たして行きたいと存じます。

昨年11月にはじまり、去る5月7日の地区協議会に至る約半年におよぶ研修に臨んで、今、ロータリーが大きく変わろうとしていると実感しています。すなわち、研修では主題といえるDLP、CLPの浸透が期待され、ロータリーへの思いを鼓舞された感を強くうけています。

この転換期に、それぞれのクラブ運営や奉仕活動を実情に即して、落合ガバナーのいわれる「行動に思いやりの心を」を体し、着実に進めて行ければと思ひています。そして、RI会長ウィリアムB. ボイド氏のテーマ「率先しよう」の実践に心掛け、改めて、「四つのテスト」を基盤に進化するロータリーをグループの皆様とともに歩み、充実した年度にしたいと願っています。



#### 第7グループガバナー補佐 **石 川 昭 男** (鹿沼東RC)

この度、第7グループのガバナー補佐に任命されました鹿沼東ロータリークラブの石川昭男です。

ウィリアムB. ボンド国際ロータリー会長は、『率先しよう』をテーマにあげています。これを受け落合雅雄ガバナーも副題に『行動に思いやりの心を』あげています。

ロータリアンは、まず何を率先して行くのか、大変迷う事と思ひますが、会長にとっての率先しようは、会長が掲げたテーマを実現するために思いやりの心を持って行動起こす方向を喚起し、クラブ全会員の先頭に立って前進する事ではないかと思ひます。

会長が目標に向かって行動を起こすにあたり必要な国際ロータリーやガバナーからの最新の情報が必要とされますが、その情報を的確に会長に伝え、クラブに諸問題が起きたときなどは、ガバナーからの的確なアドバイスを速やかに受けられるよう伝達する事がガバナー補佐の仕事とっております。

各クラブ共今年度を迎えるに当たり組織変更（CPLへの組織変更）を検討されたのではないかと思います。長年慣れ親しんだ組織を再考するときの大変さは、その時の会長になって初めて実感されるのではないかとおもいます。CLPの導入を検討するとき臆する必要はないと思いますが、ウィリアムB. ボイド国際ロータリー会長が、テーマとした『率先しよう』を心がければ自ずと道は開けてくるのではないのでしょうか。

地区にとってCLP導入することは、改革初年度と言っても過言ではないかと思います。落合ガバナーと共に新しい地区の構築に参加できることを感謝し、その達成のために微力ではありますが私なりに努力したいとっております。また落合ガバナー年度は始まったばかりですが、第7グループ各会長の掲げたテーマが全て実現でき、また実りある一年になることをお祈り申し上げます。



### 第8グループガバナー補佐 **金井 邦夫** (足利RC)

この度第8グループのガバナー補佐を委嘱されました足利ロータリークラブの金井邦夫でございます。今年度はRI会長ウィリアムB. ボイド氏の「LEAD THE WAY」「率先しよう」をテーマとして活動する訳ですが落合ガバナーはこのテーマを踏まえて各クラブの自発性、自主性、特性を生かして活動に携わっていただきたいとの事と察します。その為にもできるだけ早期に「CLP」を導入して各クラブの改革と活性化を計る事が最も重要であろうかと思っております。

幸い私の担当の第8グループの4クラブは全て「親戚関係」との事ですので以前より4クラブでの会長、幹事会や「合同例会」「ゴルフ大会」「野球大会」等を通して密接な関係を築いてまいりました。しかしながら各クラブとも置かれている環境が異なっている為に問題点も決して少ない訳ではありません。しかし今まで育んできた相互間のコミュニケーションを生かして今まで以上に活発な活動、特にロータリーの主目的「職業奉仕」に的を絞ろうと各クラブは思っている様子です。幸い足利東ロータリークラブが提唱しております「5S運動」が正に「CLP」に繋がるものと思われ各クラブに浸透できればと思います。

ちなみに「5S運動」とは「概略」

①整理（不必要なものを見出し消去）。②整頓（必要なものを迅速に取り出す）。③清掃（周囲の環境に配慮）。④清潔（継続させる）。⑤躰（決められた事を守る）の様です。

「IM」も従来の様なスタイルに問われず会員の自発的な意見の交換が出来る様な場になればと考える次第です。いずれ落合ガバナーの補佐として十分な役目が務められるか不安ではありますがガバナーと各クラブとの橋渡しが出来よう様努力する所存ですので皆様の御協力御支援を切にお願い申し上げます。



### 第9グループガバナー補佐 **富田 諦雄** (佐野東RC)

落合ガバナー年度の第9グループガバナー補佐を勤めることになりました佐野東ロータリークラブの富田です。職業は佐野市内で浄土宗大雲寺の住職をしております。ロータリー歴は21年ですが大変不勉強でロータリーの詳しい事は先だ良く解っておりません。この一年間グループ内のクラブの皆様と共に学んで行きたいと思っておりますので宜しく御協力の程お願い申し上げます。

仏教には般若心経という教典がありますが「何が真実か」と云うことが説かれております。ロータリーの四つのテストの中にも「真実かどうか」言行はこれに照らしてからと有ります。私はクラブ入会時にアメリカで発祥したロータリーと日本の仏教の教えとの間に基本的共通点があることに大変驚かされました。

足利出身の書家で相田みつを氏の言葉に「損か得かは人間のものさし」「うそかまことかは仏様のものさし」とあります。とかく人間は目先の欲に捕らわれ易いが仏様のものさしは何が真実かと云うことで物事を推し量ると云う事だと思っております。昨今のジャーナリズムやマスコミには多くの情報が溢れております。何が真実か何が間違っているのかは自分の目で見、自分の頭で判断しなければならぬ時代に来ております。私もガバナー補佐を仰せつかったこの一年間をチャンスにしてグループ内の会員幹事さんをはじめクラブの会員の皆様と一緒にロータリーを学んで行きたいと思っております。

ガバナー補佐の任務はガバナーとグループ内の会員の皆様方とのパイプ役だと思っておりますので今後は皆様のご意見やご要望がございましたら直ちにガバナーにお伝えいたしますので宜しくご協力の程重ねてお願い申し上げます。以上をもちましてガバナー補佐の挨拶とさせていただきます。有がとうございました。


**地区活性委員会委員長 鈴木 宏 (宇都宮北RC)**

原点に戻り、  
自分たちでクラブの計画を作り、目的を決め、自分たちの夢に向かって進むことを通して、組織の成長と親睦を得ることが出来るのではないのでしょうか。

理想を語ることは、

現実を変える力と現実を超えることが可能になることを意味しています。

落合雅雄ガバナ一年度より「地区活性委員会」委員長を委嘱されました宇都宮北RCの鱸ひろしです。ロータリーには二つの大きな歯車があります。「例会出席」と「職業分類」です。この歯車が如何に動いていくのかを考えていく一年間にしたいと願っています。

1. The promotion of the business interests of its members. (相互扶助)
2. The promotion of good fellowship and other desiderata ordinarily incident to social clubs. (親睦とその形態) - 1906年1月 シカゴ・クラブ定款

ロータリーは「話し合い運動」から始まりました。親睦とは何でしょう？「お喋りをする」ことです。そして「話し合い」をすることは、精神的相互扶助に通じます。それは週一回の集まりに相談事を持ち寄り、ロータリーという異質との出会いの場で、異質を味わい・葛藤し・話し合うべき時は話し合い、受け入れるべきは心に刻み、それでもコンセンサスを得られない時には、「異質こそロータリーの第1義である」ことを悟り、「お前はその立場を取れ、俺はこの立場を取る。しょうがないだろう。仲良くやろうな。」と言って別れます。そこに初めて「寛容の心」が生まれてきます。では、この相互扶助は何のためにあるのでしょうか？職業観を「話し合い」の中で磨き、その功德を社会一般に及ぼす一世のため、人のためです。それでは、例会「話し合いの場」の必要条件とは何でしょう？

1. ロータリアン各自の職場での義務感・圧迫からの解放：一週間の職場での垢を洗い、もう一週間一働きしようという気分を起こす雰囲気作り
2. 互いに心が通い、童心を取り戻し、気分が開放的となる：会員同士が親戚付合い
3. そして、クラブの中に平和を。

この一年間、記憶に残る「話し合い」のある委員会活動をしていきたいと願っております。宜しくお願いたします。


**クラブ奉仕委員会委員長 田澤 真人 (佐野RC)**

地区クラブ奉仕委員長を委嘱頂きました、田澤真人(佐野RC)です。今年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

ロータリーで云う「奉仕の理想」は、我々ロータリアンに対して、夫々の日常生活の行動範囲において、この理想を追い続けることです。どう実践するかを我々個々のロータリアンの知性やクラブ例会場における集合体としての叡知にゆだねております。

そしてその叡知の中には、理性的な判断もあろうし、直感的な判断である場合もあります。従来の生活経験と思索力に応じて、無数の判断が成り立つはずであります。「クラブ奉仕」とは、クラブの運営管理に参加することです。その目的は、個々のロータリアンが共同の行動を取る事によって、お互いに認識を深め「友情」と「親睦」を増していくと云う、日常的過程の中で、自分の心を他の者の姿に写し、自分の足りない所を反省する生活態度を定着化させて行くことです。そのためには、何をおいても例会に出席することが大切です。クラブ奉仕を行うに当たっては、あくまで言われたから「やる」のではなく、クラブ又は、会員が今何を欲しているかを考え、それに従って率先行動することが肝要です。

せつかく、ロータリーの会合に出るからには、その機会を大切にし、自分が他の会員の思考と行動から、何某かのことを学ぶという自覚が必要です。

1999-2000年度、国際ロータリー会長カルロ・ラビツア氏は、その年度の会長就任挨拶の中で、「ロータリーには、現在120万人の会員がおり、その内の30%が熱心な会員です。私達が現在、人類の為にしている良い奉仕を考える時、残りの70%の会員が熱心な会員に変わったら、どれだけ多くの事を成し遂げることが出来るか想像してみてください」と言っております。私達に取りまして、非常に耳が痛く考えさせられる言葉です。


 地区奉仕プロジェクト委員長 **関 谷 和 夫** (足利東RC)

落合年度から当地区でも29クラブ(58%)がCLP(クラブ・リーダーシップ・プラン)を採用し、組織の改変をして奉仕プロジェクト委員会を立ち上げましたが、これは今後のクラブの発展を期待する取り組みであり興味深いことです。

クラブの委員会構成が改変され、その特徴的な委員会である奉仕プロジェクト委員会が、職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕の3部門を包括することになりました。しかしながら、3部門の基本的な理念は決して埋没させてしまうことなく、従来通り堅持することになります。

それでは奉仕プロジェクト委員長の役割について考えてみましょう。

会員数が百名を越すような大規模クラブの場合では、職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕の各部門はそれぞれの委員会が奉仕プロジェクトを個々に企画立案し、実行に当たっても当該委員会が中心になって独立して活動していると思われる。クラブの奉仕プロジェクト委員長にはこれら3部門の事業を有機的に結び付け、調整する横糸の役割を果たしていただき、より充実した奉仕活動を展開していただければクラブのさらなる活性化にもつながると期待できます。小規模クラブの場合には、職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕の3部門全てに関連する奉仕プロジェクトを計画することが理想的でありましょう。又、年度によっていずれかの部門に重点をおいた活動をしていくこともクラブにとって効率良く成果をあげることができるように思います。

会員数、予算規模、奉仕活動についての考え方等は個々のクラブによって違いがありますので、クラブの特性に合った奉仕プロジェクトを計画して、それに多数の会員が関わることができれば、クラブのパワーアップにつながると思います。

奉仕プロジェクト委員長には職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕の全ての視点でクラブの奉仕活動を調整するコーディネーターの役割を果たしていただくよう期待しております。


 新世代プロジェクト委員長 **川 名 悟** (宇都宮90RC)

昨年、新世代委員長を拝命致しまして早1年、皆様には、当委員会へのご理解、ご協力を賜りました事を改めて感謝致します。今年度は、委員会名を新世代プロジェクトとしての新たなスタートとなります。引き続き皆様と共に委員会活動を進めて参りたいと思います。

さて、昨年の目標の1つとして私共が掲げました“各委員会との横のつながりを強めてゆこう”

という事につきましては、お陰様でかなりの目標達成がなされたのではないかと思います。具体的に例示しますと、昨秋のライフセミナー並びに今春の高校生ライフセミナーにおいて、当委員会に関係するローターアクト・インターアクトのメンバーは元より、米山記念奨学生、1年交換留学生、インターアクト顧問の先生方等、各委員会のご協力の元、多方面に渡る参加者に集まって頂きました。また、4月にインターアクト委員会の主催による足尾の植林に折も、多くのロータリアンとローターアクターの面々がロータリーファミリーの先輩としてインターアクトの活動を支えてくれました。このような、人と人との輪が様々な垣根を越えて益々広がってゆき、強い横糸となってロータリー活動を支えてくれることを心から望みたいと思います。また、もう1つの目標にロータリーアクトの自立があります。これは、彼らの自助努力の結果、2月の地区年次大会に見られるように、コンサートでの収益金をあげ、スポンサークラブ並びに地区からの助成金を返還し、さらには活動資金の一部を賄うという、これまでにない、画期的な出来事がありました。

新年度に当たり、これからも引き続きローターアクトの自立を促し、“自ら考え、行動する”事を彼らに体験してもらいながら、さらなるローターアクトの拡大をはかってゆきたいと思います。また、青少年育成委員会の継続事業である“ロータリアン講師派遣、教員・生徒職場体験受入れ事業所”名簿の作成と活用を進めてゆきたいと思います。ライラ委員会、インターアクト委員会共に、これまでの活動をベースにそれぞれが率先して委員会活動を進めてゆきたいと思います。




 地区ロータリー財団委員長 **佐野 正行** (佐野RC)

半田久一ロータリー財団委員長に代わり今年よりロータリー財団委員長ならびにロータリー財団カウンセラーをお引き受けいたしました、3年間よろしくお願ひいたします。

ロータリー財団は皆様ご存知のように、1917年、6人目のRI会長アーチ・クランプがアトランタの国際大会で「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で事前、教育、その他、社会奉仕の分野で何か良いことをしようではないか」と提案されました、そして基金への寄付の第一号は26ドル50セントそれはカンサス・シティーRCからで、クランプ会長への記念品の購入資金でした。この基金は1928年ミネアポリス国際大会でロータリー財団と改称され、国際ロータリーの中で、別個の存在として活動し、大きな財団に発展して来るのです。さらにアーチ・クランプは「われわれはこの財団を今日明日の時点でなく、何年、何世代の尺度で見つめるべきです、なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる運動だからです」と述べています。その通り財団の発展は限りなく進み、世界平和に大きな貢献をするのです。05年10月31日現在1000ドルを財団に寄付し、ポール・ハリス・フェローの認証を受けた人数は世界で971,367人です。こうして皆様より集まった基金は1.年次寄付2.恒久基金寄付3.使途指定寄付の三つに大別されますが、そのうちの年次寄付が財団プログラムの基礎であり、寄付してから3年間運用され、50%が財団のプログラムに、そして50%が地区が使い道を決定できるプログラムに使うことができるのです。

財団のプログラムは大きく分けて

- 1.人道的プログラム はマッチング・グラント、地区補助金、個人向け補助金、3-H補助金、の4つがあります
- 2.教育的プログラム は国際親善奨学金、世界平和フェロシップ、研究グループ交換、大学教員のためのロータリー補助金、ロータリー平和及び紛争解決研究プログラムの5つです
- 3.ポリオ・プラス・プログラム

があります、皆様よりの寄付は世界の人々のために大きな貢献をしているのです。寄付をしても使えないと思う方もおられると思いますが、それは違います。これらプログラムは皆さんのクラブで大いに活用できるのです。3年間取り入れた地区補助金が一番身近かもしれません、これは今年も取り入れます。大いに応募していただきたいと思ひます。又海外に留学できる国際親善奨学生にもクラブより推薦されては如何でしょうか。ロータリー財団プログラムを大いに活用し、活力あるロータリー活動をしてください。寄付だけでなく、活用するのも貴方なのです。


 米山記念奨学会委員長 **池嶋 英哲** (西那須野RC)

2004年11月に開催されたRI理事会において、日本の理事の皆様方の長年の努力の結果が実を結び、米山奨学事業が日本のロータリーにおける多地区合同奉仕活動であることが確認されました。これにより、「日本のロータリアンの誇り米山奨学事業」は国際ロータリーにおいて新たな、そして確実な第一歩を踏み出しました。1953年に「米山基金」として募金が始まり、当初は、アジアの留学生が、対象となる「救貧・途上国援助型」でしたが、現在は「知的・国際貢献型」

へと変化し、これまでに世界104ヶ国、12,706人(2005年5月現在)におよぶ外国人留学生を支援し、事業規模、採用数において民間で最大の奨学団体となっています。年間千人規模の採用を維持してきましたが、特別積立金を充当し続けての支援に危機の声が挙がり、ついに2005年度から採用数、支給額の縮減を断行しました。そんな時期にもかかわらず、当2550地区は、歴代ガバナーの強力な指導力と委員長の努力、各クラブ会員皆様のご理解、ご協力により全国上位の寄付額を誇り、2006学年度は奨学生が4名増の成果を上げることができました。昨年度も3月末の段階ではありますが、一人当たり18,000円を達成することは確実で、地区別順位でも第三位を確保しており、次年度の当地区が採用できる数も増加が期待されています。本年度の委員会の目標としましては、米山奨学事業の充実のためにも寄付額の達成はぜひお願ひいたします。また、世話クラブ、カウンセラーを地区内各クラブが平均にお引き受け頂ければということです。まず、米山月間の留学生の卓話、それに付随してのワンデーホスピタリティー等を通じてぜひ理解を深めて頂ければと思ひます。現在、対日感情が悪化している国の問題がありますが、こんな時期だからこそ、国際理解、世界平和のためにも、ロータリーの理念のためにも、米山記念奨学会の活動へのお力添えをよろしくお願ひ致します。

## 2007年-2008年 1年交換学生募集要項

奉仕プロジェクト諮問委員 半田 久一 (黒磯R・C)  
 奉仕プロジェクト委員長 関谷和 夫 (足利東R・C)  
 国際奉仕委員長 柴田 恒男 (宇都宮西R・C)  
 青少年交換委員長 瀬野 公男 (小山南R・C)

国際ロータリー青少年交換計画に基づき、高校生に海外生活を通じて国際理解と友情の意義を習得させるために、次の要領により当地区の交換学生を募集します。

1. 留 学 先 米国、カナダ、ブラジル、フランス、タイ、台湾等
2. 留 学 期 間 2007年8月から1年間
3. 募 集 人 員 7～8名
4. 海外での生活 派遣先のロータリークラブ会員か、またはロータリーより選ばれた家族がホストファミリーとなり、原則として4家族に約3ヶ月ずつ家族の一員として生活を共にし、高校へ通学します。
5. 費 用 負 担 本人の派遣先までの往復航空運賃（委員会指定の旅行会社を使っていただきます。）及び、渡航手続き費用、滞在中の疾病、傷害保険料、出発前の研修等の費用は、保護者の負担となります。  
留学期間の生活費、学費は全て派遣先のロータリークラブが負担します。また滞在中、ホストクラブより本人に、毎月お小遣いが支給されます。
6. 応 募 資 格 a) 国際ロータリー第2550地区（栃木県）内に居住、又は、地区内の公・私立高校に在学の日本国籍を有する健康な男女  
 高校1年生及び2年生  
 b) 学業成績に優れ、特に外国語（派遣地の言語）の取得に積極的な者  
 c) 保護者の承諾があり、かつ通学する学校長の推薦と区域のロータリークラブの推薦が得られる者
7. 申 込 方 法 a) 下記の地区委員に応募したい旨を申し込んでください。委員より申請書が送付されますので、必要事項を記入し、学校長の所見、及びロータリークラブ会長の推薦と署名を受け、推薦ロータリークラブに提出するか、又は、直接下記の地区委員のいずれか宛に郵送して下さい。  
 b) 申込締切：2006年9月10日（当日必着）
8. 選 考 方 法 a) 選考日：2006年9月17日（日曜日）  
 b) 選考方法：筆記試験、面接  
 ※試験内容の詳細につきましては申込後、応募者に通知します
9. 合 否 発 表 試験後2週間以内に本人と推薦クラブ会長及び学校長宛に文書で通知します。
10. 研 修 会 合格した学生は、出発までに数回のオリエンテーション（研修会）に保護者同伴で参加する義務があります。その間に留学不適当とみなされた場合は、合格を取り消すことがあります。
11. 派遣国の内定 数回のオリエンテーションを行った後、青少年交換委員会が本人の特性を十分考慮し決定いたします。

## ◎申込先

- ・地区青少年交換委員 和気 勝利 (黒磯R・C)  
 〒325-0055 那須塩原市宮町6-8 TEL 0287-62-0357 (会社) 090-3245-9871 (携帯)  
 FAX 0287-62-2697
- ・地区青少年交換委員 松葉 悠子 (足利東R・C)  
 〒326-0044 足利市助戸1丁目18-4 TEL 0284-42-0217 (会社) 0284-42-7225 (自宅)  
 FAX 0284-42-0308

落合雅雄ガバナー公式訪問日程表

夜間例会

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
7月													新暦盆				海の日	足利東		真岡				佐野			鹿沼				
																				真岡											
																				真岡											
																				真岡											
8月			足利										旧暦盆											佐野東						西那須野	
			足利西																					岩舟						塩原	
			足利わたらせ																												
9月					鹿沼中央		宇都宮西					烏山	氏家				敬老の日			大田原			秋分の日			今市きぬ	宇都宮南				
					栗野西方							矢板	高根沢							黒羽							宇都宮陽南				
												馬頭小川								大田原中央											
10月			葛生		宇都宮北					体育の日	宇都宮	黒磯	小山東				宇都宮東							宇都宮90		日光					
			田沼									那須	小山北												今市						
																	小山中央														
11月			文化の日				宇都宮陽北									宇都宮陽東															
																					小山	小山南			勤労感謝の日						栃木
																															栃木西
																															生



<b>ガバナー補佐</b>		<b>地区ガバナー</b>		<b>R I 会長</b>	
第1グループ	相馬 征志 (黒 磯)	落合 雅雄 (栃 木 西)		ウィリアム B・ボイド	
第2グループ	大田原・黒磯・西那須野・黒羽・ 那須・塩原・大田原中央	<b>地区 大会</b>		<b>R I 理事</b>	
第3グループ	高橋 経雄 (氏 家)	<b>地区 諮問 委員</b>		重田 政信 (高崎北)	
第4グループ	鳥山・氏家・矢板・馬頭小川・ 高根沢	鈴木 基一 (西那須野)	<b>ガバナーエレクト</b>	渡辺 好政 (児 島)	
第5グループ	伊東 永峯 (宇都宮西)	板橋 敏雄 (足 利 東)	近藤 隆亮 (宇 都 宮)	<b>地区 幹 事</b>	
第6グループ	宇都宮・宇都宮西・宇都宮北・ 宇都宮90・宇都宮陽北	石原 敏士 (鹿 沼)	<b>地区研修リーダー</b>	大島 伸介 (栃 木 西)	
第7グループ	喜内 敏夫 (宇都宮南)	辻 由兵衛 (宇都宮東)	佐野 正行 (佐 野)	中村 福蔵 (足 利 東)	
第8グループ	宇都宮東・宇都宮南・宇都宮陽東 宇都宮陽南	深澤 豊吉 (足 利)	<b>地区 協 議 会</b>	篠崎 昌平 (宇 都 宮)	
第9グループ	篠原 宣之 (真 岡)	吉澤 兵左 (葛 生)	<b>会長エレクト研修セミナー (PETS)</b>	<b>地区 会 計 長</b>	
第10グループ	真岡・益子・真岡西・石橋	岡田 昭郎 (真 岡)	<b>地区チーム研修セミナー</b>	久嶋 柳次 (栃 木 西)	
第11グループ	吉光寺 俊夫 (小 山)	半田 久一 (黒 磯)	<b>拡 大 委 員</b>	<b>地区 資 金 委 員</b>	
第12グループ	小山・小山西・小山東・小山西・ 小山中央	亀和田 辰男 (宇都宮北)	佐野 正行 (佐 野)	新里 元二 (足 利 東)	
第13グループ	松本 幸三 (壬 生)	佐野 正行 (佐 野)	村上 肇 (宇都宮西)	久保井 一臣 (宇 都 宮)	
第14グループ	栃木・栃木西・壬生・栃木南	村上 肇 (宇都宮西)	大竹 義夫 (足 利 東)	<b>ロータリーの友地区委員</b>	
第15グループ	石川 昭男 (鹿沼東)	大竹 義夫 (足 利 東)	<b>国際大会参加推進</b>	塚田 宏司 (栃 木 西)	
第16グループ	日光・鹿沼・今市・鹿沼東・ 粟野西方・鹿沼中央・今市きぬ	<b>ガバナー指名委員</b>	※近藤 隆亮 (宇 都 宮)	塚藤 高蔵 (宇 都 宮)	
第17グループ	金井 邦夫 (足 利)	半田 久一 (黒 磯)	高山 實 (宇都宮南)	<b>D I C O</b>	
第18グループ	足利・足利東・足利西・ 足利わたらせ	○亀和田 辰男 (宇都宮北)	高橋 智純 (西那須野)	小林 正明 (宇都宮東)	
第19グループ	富田 諦雄 (佐野東)	佐野 正行 (佐 野)	手塚 賢二 (氏 家)	石塚 道徳 (栃 木 西)	
第20グループ	佐野・葛生・田沼・佐野東・岩舟	村上 肇 (宇都宮西)	岡 良一 (岩 舟)		
		大竹 義夫 (足 利 東)	伊藤 徳三郎 (今 市)		
		○印は指名委員長	片柳 正樹 (小 山 北)		
			※印は委員長		

カウンセラー(担当諮問委員)					
地区 活 性 担 当	クラブ 奉 仕 担 当	奉 仕 プロジェクト 担 当	新 世 代 プロジェクト 担 当	ロータリー 財 団 担 当	米 山 記 念 奨 学 会 担 当
村上 肇 (宇都宮西)	亀和田 辰男 (宇都宮北)	半田 久一 (黒 磯)	大竹 義夫 (足 利 東)	佐野 正行 (佐 野)	岡田 昭郎 (真 岡)

委 員 会					
地 区 活 性	ク ラ ブ 奉 仕	奉 仕 プロジェクト	新 世 代 プロジェクト	ロータリー 財 団	米 山 記 念 奨 学 会
委員長 鈴木 宏 (宇都宮北)	委員長 田澤 真人 (佐 野)	委員長 関谷 和夫 (足 利 東)	委員長 川名 悟 (宇都宮90)	委員長 佐野 正行 (佐 野)	委員長 池嶋 英哲 (西那須野)

<b>ガバナー補佐</b>	<b>ロータリー情報</b>	<b>職業奉仕</b>	<b>社会奉仕</b>	<b>国際奉仕</b>	<b>青少年育成</b>	<b>国際親善奨学金</b>	<b>米山記念奨学会</b>
次年度クラブ会長	☆梁島伸幸 (壬 生)	☆川島淳一 (岩 舟)	☆前田 茂 (宇都宮90)	☆柴田恒男 (宇都宮西)	☆伊澤勝彦 (石 橋)	☆白相淑久 (馬頭小川)	☆米越啓司 (足 利 東)
次年度ガバナー補佐	野澤篤司 (宇都宮北)	村上芳弘 (宇都宮南)	宇南山照信 (真 岡)		粕谷明弘 (宇都宮90)	村上武夫 (栃 木)	前田光弘 (矢 板)
	吉成容一 (氏 家)	柳澤最伸 (真 岡 西)	三ツ山一明 (日 光)	<b>世界社会奉仕</b>	石橋一男 (那 須)	生井俊一 (宇都宮南)	恩田光憲 (宇都宮西)
	<b>広 報</b>	西田 靖 (宇都宮陽北)	塚田宗雄 (宇都宮東)	☆織田宏二 (宇都宮北)	羊田紀一 (益 子)	<b>研究グループ交換</b>	石川敏廣 (小 山)
	☆遠藤幸一 (小 山 東)	大出孝三郎 (鹿 沼)	小沼重信 (黒 羽)	宇賀神 越 (鹿 沼 東)	<b>ラ イ ラ</b>	☆藤原都三 (益 子)	稲葉總吉 (栃 木 西)
	杉山 欣 (真 岡)			野口忠男 (宇都宮東)	☆神山宜久 (小 山 南)	村上正子 (栃 木 南)	米山記念奨学会学友会
	<b>会 員 組 織</b>			飯村慎一 (宇都宮90)	中田英昭 (葛 生)	齋藤 隆 (宇都宮北)	☆米光啓彌 (宇都宮南)
	☆増岡由子 (足 利 東)			佐藤 博 (黒 磯)	上野秀雄 (石 橋)	黒澤洋一 (黒 磯)	
	加藤利勝 (黒 羽)			<b>青少年交換</b>	深尾耕造 (宇都宮南)	横松宏明 (宇都宮西)	
	新妻健一 (宇都宮北)			☆瀬野公男 (小 山 南)	佐藤元典 (那 須)	奈良靖久 (大 田 原)	
	橋本義一 (栃 木)			佐山知也 (栃 木)	櫻井洋子 (真 岡 西)	<b>財 団 補 助 金</b>	
	亀田 清 (田 沼)			青山敏朗 (佐 野)	<b>ローターアクト</b>	☆高野藤房 (宇都宮東)	
	榑橋誠一郎 (鳥 山)			和氣勝利 (黒 磯)	☆小林正明 (宇都宮東)	佐藤 節 (宇都宮北)	
	高山 功 (石 橋)			高山 恵 (宇都宮陽北)	秋澤隆司 (鹿 沼)	真尾伸一 (足利わたらせ)	
	<b>ロータリー家族</b>			松葉悠子 (足 利 東)	椎名則之 (足 利 東)	<b>年次寄付&amp;恒久基金</b>	
	☆高木敏子 (石 橋)			<b>国際親善</b>	<b>インターアクト</b>	☆田村昭夫 (小 山 東)	
	孤塚育男 (栃 木 西)			☆田島良久 (馬頭小川)	☆岡川光佑 (宇都宮西)	石崎功一 (栃 木 西)	
				出口 敏 (鹿 沼 東)	月江寛智 (黒 磯)	喜谷辰夫 (宇 都 宮)	
					橋本義彦 (足 利)	<b>財 団 学 友</b>	
					中島恭三 (足 利 東)	☆藤原宏史 (宇 都 宮)	
					菅野進一 (矢 板)	渡辺一郎 (西那須野)	
					加藤芳宏 (栃 木 西)	<b>ポリオプラス&amp; 識字率向上支援</b>	
						☆森本敬三 (大田原中央)	
						阿部重光 (宇都宮南)	
						新井英雄 (栃 木 南)	

※ガバナーエレクトは国際大会(マルメ・コペンハーゲン)にてエレクトになりますので、7月以前はノミネーです。  
☆印は小委員会委員長



2006年度7～10月 地区主要行事予定

地区外行事

月	日	曜日	行 事		場 所
7	1日	日	ガバナー元次期ガバナー懇談会	東 京	新高輪プリンスホテル
	2日	日	奉仕プロジェクト&新世代プロジェクト委員会研修セミナー	宇都宮	東武グランデ
	9日	日	第1回諮問委員会	栃 木	サンルートプラザ栃木
	17日	月(祝)	クラブ奉仕委員長研修会	宇都宮	宇都宮グランドホテル
8	5日	土	インターアクト年次大会(ホスト塩谷高校)		塩谷中学校
	6日	日	ロータリー財団地域セミナー	横 浜	横浜パシフィコ
	19日	土	R財団&米山記念奨学会委員長研修セミナー	宇都宮	ホテルニューイタヤ
	30日	水	米山記念奨学会委員会理事会・評議委員会	東 京	新高輪プリンスホテル
9	3日	日	第1回 会長・幹事会	栃 木	栃木商工会議所
	"	"	第2回 諮問委員会	栃 木	栃木商工会議所
	10日	日	クラブ国際奉仕委員長研修セミナー		
	17-18日	日-月	G E T S	東 京	新高輪プリンスホテル
10	17日	日	一年交換学生選考試験		
	7日	土	矢板ロータリークラブ40周年記念式典	矢 板	矢板イースタンホテル
	"	"	地区親善野球大会		

文庫通信(225号)

新年度にあたり改めてご挨拶申し上げます。

本ロータリー文庫には、常々方ならぬご協力、ご愛顧を賜り衷心から感謝致しております。今更申し上げるまでもなく、「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に設立され、36年の歴史を誇る全日本ロータリアンの資料室です。ここにはロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約1万9千点が収集・分類・整備され、皆様のご利用に備えております。ロータリーの研究や諸活動のため、ぜひご利用くださるようお待ちしております。

利用方法

文庫資料は自由に閲覧できますが、電話や書信によるお問い合わせも承ります。

お問い合わせは間接では要領を得ない場合がありますので、なるべくご本人から直接お願い致します。

(文庫資料をご希望の場合は)

- ・発行先に在庫のある資料については、発行先をご紹介致します。
- ・絶版のものは実費(1枚20円+送料)でコピーサービスを致します。
- ・重複資料はご希望により無料進呈致します。
- ・ビデオテープは有料でダビングを致します。

(貸出し)

- ・視聴覚資料(スライド・フィルム)は予約制(申し込み用紙有)で貸出し致します。

(登録資料の紹介)

- ・「資料目録」をクラブ事務所に備付用としてお送りしてありますので、ご利用願います。「目録」をご希望の場合はお申込みください。
- ・「ガバナー月信」に「文庫通信」欄を設けさせて頂き、皆様のご参考になるような資料の紹介を致しております。
- ・「ホームページ」を開設しております。分類別に検索可能です。

(ご寄贈)

- ・個人の著作、クラブ発行のもの、地区発行のもの等々、いずれも内外を問わずロータリーに関する資料をご寄贈願います。文庫に保存して皆様のお役に立てさせて頂きます。

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F

TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>

開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

クラブ事務所変更のお知らせ

鹿沼ロータリークラブ

旧事務所 〒322-0035 鹿沼市朝日町1942 石黒鉄工所内 TEL 0289-62-6261 FAX 0289-62-6262

新事務所 〒321-2332 日光市大室389 狐塚泰久 TEL 0288-26-6240 FAX 0288-26-1930

宇都宮南ロータリークラブ

旧事務所 〒329-1311 さくら市氏家1479-2 鈴木千枝子方 TEL 028-681-5681 FAX 028-681-5682

新事務所 〒320-0811 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ内 TEL 028-635-5511 FAX 028-633-3772

通 信 欄

落合雅雄ガバナー年度「月信」の第1号をお届けいたします。

栃木西RCメンバー5人とガバナー事務所職員2人の応援を得ながら、一年間頑張って参りますので、是非ご愛読いただきたく思います。

8月号の表紙より栃木市の観光名所を掲載させていただきます。お楽しみにお待ちしております。又、クラブの活動や記念行事など「月信」へのご投稿をお寄せいただきたくお願いいたします。

ガバナー月信編集委員会 落合藤市 横山好子 高瀬時康  
塚田宏司 岩下栄一